

大阪民衆史研究会報

2025年9・10月号

第32巻第8号

(通巻359号)

発行 大阪民衆史研究会 (代表 林 耕二)

E-mail: osaka.minshushi@gmail.com (オーサカ ドット ミンシューシ)

例会のお知らせ

◇10月例会

日時 10月19日(日) 13時半開場、14時開会

会場 大阪府教育会館3F蘭の間

報告 中條健志さん(本会会員・神戸大学大学院文化学研究科講師)

『『極右の台頭』とは何か?—フランスとベルギーを事例に—』

ヨーロッパにおける「極右の台頭」が叫ばれて久しいが、そうした勢力は何を主張しているのだろうか?その背景としてナショナリズムや排外主義の高まりが語られる一方で、極右政党の「脱悪魔化」とよばれる穏健化路線への転換も指摘されている。

日本の報道では「移民」や「外国人」、「難民」と結び付けられることが多いこの問題について、本報告では、国民連合(フランス)とフラームス・ベランフ(ベルギー)の主張を読み解きながら、「台頭」の要因を明らかにする。

◇11月例会

日時 11月9日(日) 13時半開場、14時開会

会場 大阪府教育会館3F蘭の間

報告 赤塚康雄(会員)「ジャーナリスト・柳沢恭雄、その報道の軌跡

—大本営報道から北爆(ベトナム)映像の配信へ—」

柳沢がジャーナリストとなる契機は京都帝大で新聞学の小野秀隆教授に師事したことだ。1938年東京放送局に入局。戦時下で大本営発表の放送ばかり。1944年11月のレイテ戦で柳沢は勝利に一億の体当たりが必要、決定的兵器・飛行機をと報道する。終戦後、柳沢は郷里京都府の第16師団はレイテで玉砕、町の英霊墓地には墓碑が林立、無謀な訴えであったと衝撃を受けた。戦後の出発点で大本営報道をやってきたジャーナリストだという地点からの判断をしてゆく。1960年日本電波ニュース社を設立、ベトナム戦争報道をした。配信ニュースは世界中で反戦運動を起こしベトナム和平を導く一助となった。柳沢は「ベトナム戦争という大きな舞台で小さな役割を与えられたことを喜ばなければならない、歴史の記録係の、はしくれであることは、ありがたいと思う」と総括している。

参加費 会員400円 非会員500円